
久しぶりに「瑚龍院祥尚」さんから投稿を頂きました。相変わらず含蓄に富む、大変興味深い内容です。持病と闘い、リハビリに励む中で、何回も加筆・修正のやりとりをしながら書き上げられたものです。内容は所感から体験談、追憶、終活など盛りだくさんです。ここから新たな発見があるかも知れません。”まだまだこれから” ぜひご一読下さい。

ところで、このところ「菱の実会ホームページ」のアクセス数が急減しています。高齢化現象でしょうか。認知機能を保つには「読む」「書く」「打つ(キーボード)」が大切と言われています。健康長寿のためにもホームページへの投稿、閲覧をおすすめします。

(菱の実会事務局)

死 生 観

瑚龍院祥尚

作家で元東京都知事の石原慎太郎氏が 2022/2/1 89歳で亡くなった。生前は必ずしも好感を持っていなかった。しかし、亡くなって色々マスコミ報道をみると、立派な政治家だったと思う。言動・行動に責任感と覚悟があったと思う。天下・国家論があった。今の政治家に天下・国家論を聞いたことがない。と兼ね兼ね思っていたから共感することが大きかった。一度は首相になっていて欲しかった。首相であったら日本は今より変わっていて世界にもっと胸を張れる元気・勇気があったことであろう。憲法・核原子力・防衛・エネルギー・対ロシア問題などなど。死ぬまでは生きている。とも言っていたとのことである

以前スキー仲間の Ka さんに私の言うことは「8割嘘」と言われたことがある。それを同じく仲間の別の K さんには”二八(にはち)そば”かと、からかわれた。至極正直に真面目に言っているのに、表現に照れもあり下手なジョークが禍していたらしい。Ka さんは水彩画の達人で個展を開かれていた。NTT の現役時代テレホンカードのヒットを何作もつくられた。

Ko さんは生前おなかの切開手術をうけていて「俺の腹は黒くなかった」と言っていた。信じることにした。見てはいないが。

スキーは下手の横好きの一つでよくやっていた。下手の横好きはテニス・ゴルフなどスポーツの他にも将棋とか俳句とか詩吟などもあったが、どれも柄には合わないし、モノになったものは一つもない。暇つぶし以外の何物でもなかった。競輪・競馬・競艇はやらなかった。麻雀・花札はよくやった。パチンコは少しやった。

I さんはパチンコの名手だった。彼は小遣いがなくなると他人にお金を借りては近くのパチンコ屋へ行っては稼いでいた。パチンコ屋は彼をみかけると小遣いを持たして返した。彼の見立てた台は下手な私でもよく出た。当時手打ちだったが速さもすごかった。雨霞以上の豪雨のように凄まじかった。

T さんはゴルフの名手だった。「ゴルフを一日に2ラウンドやれる人は足が満ちていて”満足”といい、出来ない人は足がたりず”不足”という」との名言をも教えて貰い、時々使わせていただいている。今の私は杖頼りで完全な不足人だ。

K さんは詩吟の師範だった。「発声は腹式呼吸で、母音をシッカリ出すように」と教えられていた。カラオケでいつも頭においてうなっていた。

カラオケもこれまた他のことに負けず劣らず下手くそ乍らいっぱい歌いまくった。歌える唄は幾つもあったが聴かせる唄は一つもなかった。今は声がたたなくて全く歌えない。

「聴き手の粗相はいい手の粗相」という。「読み手の勘違いは書き手の粗相」ということにもなる。ここでの投稿も嘘だったりホラだったり受け止められるところが多々あるかもしれないのは承知して書く。

人が亡くなった後、忌明けを三十五日（五七忌）とか四十九日（七七忌）とかにする慣わしがある。人は死ぬ（亡くなる）と先ず三途の川に辿り着いてから彼岸へわたるとのことである。生前の行いによって、行いの悪いの者は激流を泳いで渡る、普通の人浅瀬を歩いて渡る、善人は橋を使って彼岸（浄土）へ行けるらしい。彼岸では十王が待ち構えていて七日毎に裁きをするらしい。

5回目、即ち $5 \times 7 \text{ 日} = 35 \text{ 日}$ 目に、ご存じ閻魔さんの裁きを受けるとのことである。どうもこれが三十五日（五七忌）の起源かとも思える。四十九日（七七忌）はどんな王の裁きを受けるのだろうか。

死後肉体は滅びるものの魂は滅ぶことなく六道（天・人・餓鬼・畜生・修羅・地獄）を輪廻してさ迷い続けるという話があることは承知している。が信じてはいない。

生前の行いが悪いと地獄へ行ったりもするらしい。悪い行いとは、殺生（草木や虫や動物）・嘘・盗み・邪淫（不倫/浮気）・親殺しなどで閻魔帳に書かれているという。生前の行いの程合によって、どの地獄（攻め具合によって軽重八段階あり）へ送られるかも決まるらしい。

私は地獄へは行かない。地獄行の要件を持ち合わせていないからである。ただ、地獄に堕ちてもよかったので、邪院を一度は経験していたらもっと楽しく豊かな人生だったとは思う？ 多くの芸術家や文豪のように。複数の女性の名前が昔も今も思い浮かび、中には濃い人もあるが他人に語るようなことは何もない。

文豪の遺稿を目にしたことがある。達筆な人が多い。達筆で思い出されるのは、本社の M 本部長に頂いた毛筆の手紙。漢字が流れる様な崩し文字で読めない。技術部長で達筆だった T さんに読んでもらった。

達筆の対極をなす悪筆の人を 4～5 人すぐに思い出す。同時代の所長であった N 氏と K 氏。他に A さん・F さん・T さん。当時所長秘書の O さんに両氏共よく文書をワープロで清書させていたことがあった。

この原稿に読めないところが多くあり前後関係から推測して教えてあげた。読めないのは文字とはいえない。崩し文字を読めないのとは次元が全く異なる。私も下手くそな字しか書けないがなんとか読んでもらえる。

話題を変えて。

ロシア/プーチンがウクライナへ戦争を仕掛けた。

これでプーチンのノスタルジアが世代間ギャップのある若者の反発で間もなく失脚することを願う。日本はプーチンに厳しく対応し、後任大統領と上手に外交して北方領土を取り返してくれることを願う。

最近の藤井聡汰 5 冠の将棋で気付いたことは、他のトップ棋士が見捨てていたような手を更に奥深く読んで指して、全人未踏の偉業を成し遂げようとしている。有って当たり前無くて当然といった、既成概念・固定観念を捨てて新しいことにチャレンジすることは何事によらず進歩をもたらす大切なことである。

ここ一番という大事な対局でのプロ棋士による解説で、勝敗を分ける一手が幾つもあるが二つにわかれている。ひとつは独創的な一手、もう一つはそれ迄プロが見捨てていた指手。後者の手を入門したての棋士が指すと師匠から破門されて國へ帰れと言われたという話をも聞いたことがある。そういう手を藤井聡汰 5 冠は指して大きなタイトルを獲得している。

独創性と既成概念・固定観念に捕らわれない柔軟性ほどの道にも通じる。大仕事を成し遂げる大きな要素とみてとれる。

プロやトップアマは様々な状況に対応できる技を持ち、トッププロはその中でも他のプロ以上のほんの僅かなところを掴み見つけて生かすプロだと思っている。砂金が入った大きな砂場から他人が気づかないような大き目の砂金を見つけて大きな金塊にするが如く、流石にトッププロ中の超トッププロだ。オリンピックに出る選手・勝つ選手もそうに違いない。

柳生家の家訓に、小才は袖すり逢う運に気付かず・大才は運を生かす。というのがあるが、藤井聡汰 5 冠のそれも一脈通じるところがありそうな気がする。誰もやっていないことをしてみる。有って当然と思っていたものを無くしてみる。

改めて思う。

憲法改正も核問題も、するしない・持つ持たないは別にして議論はしておいた方がよい。人によっては、議論するひとを賛成論者と勘違いしている人もいるようだが違うと思う。コンテンジェンシーだ。

話は大きく変わる。

戒名は決めてある(珊瑚院祥尚)。葬式仏教の生臭坊主にお布施を払いたくなくて、自分で決めたのが結構気に入っている。

葬式は簡素にしてほしい。家族葬がよい。家には、お骨と位牌と遺影とお線香をどこかへ置いておくだけでよい。仏壇はなくてよい。あってもよいが遺族がつくるというのであれば任せる。

お墓も自分がデザインした墓石を十数年前に建てたが未だ空き家のまま住人を待っている。他人に貸すわけにもいかない。でも自らここへ移住するのはもう少し見合わせたい。まだまだこれから。”売り墓”とか”貸墓”とか広告を出したりチラシを作っても、だれもみむきもしないだろう。

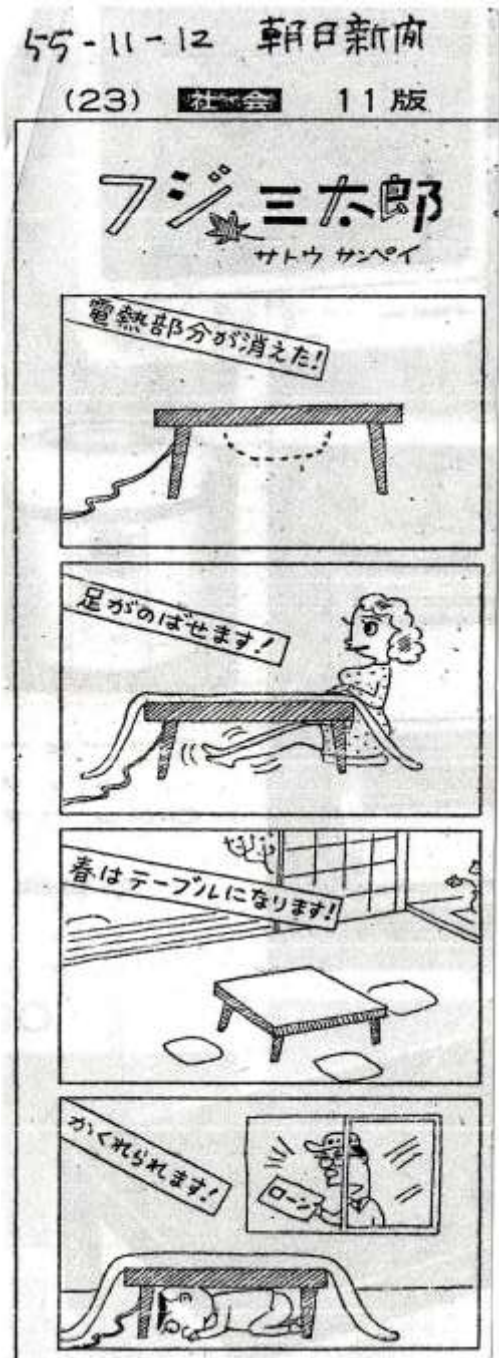
そこには S55 (1980) に朝日新聞の4コマ漫画へ時の漫画家サトウサンペイさんの”フジ三太郎”に取り上げてくれた出っ張りヒーターが消えたコタツもレリーフとして彫ったものも貼り付けてある。



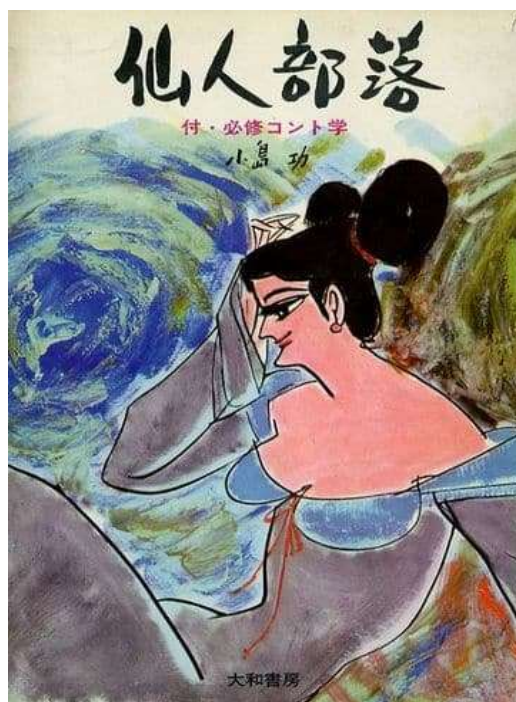
この4コマ漫画、今の人達には分からない。お爺さんやお婆さんには分かる。

「昔あるところに、お爺さんとお婆さんが住んでいて、コタツでミカンを食べながらTVを見ていたような」コタツは、中に大きな出っ張りの金網に囲まれた赤色のメロン形の赤外線ランプヒーターの付いたものだった。これ以前の炭火を入れたのも微かに覚えがある。

このころの TV は丸みのおびたブラウン管・真空管式のものだった。白黒かカラーか。リモコンはない。チャンネル切り替えはダイヤルをカチカチ回す。名残で今もチャンネル切替を「チャンネルを回す」と聞くことがある。ダイヤルは他にも「音量」「画質/歪み (真円度)」「コントラスト」、カラーTVでは「色具合」「色調」など幾つもあった。映りが悪いとTVをモシモシとトントン叩くと直ったりもした。トントン叩くのは、パチンコ屋さんでも見かけていて、当たり玉が出ない時に店員を呼ぶのにトントンかもっと激しくドンドンと叩いていた。



漫画はいくつもあるが、中でもこれと「仙人部落」はいろいろな思い出が深い。



エジソンの言葉に「発明で、最初奇異に思われてもやがて常識になるものが良い発明だ」と。月とスッポン以上に全く遠く足元にも何も及ぶべくもないが、このコタツも今は常識化した。どちらも今は見られない。

それともう一つ家紋も彫り付けた。代々我が実家の家紋は”丸に五本骨扇”の簡素な図柄だった。実家の屋根の鬼瓦にも彫られていた。が母親が淋しいからと、七本扇にして飾りを足して”檜扇”に変えた。これも、気に入ってリハビリスタッフの M さんの勧めもあり、長屋の表札やポストの表札の他いろいろな小物に貼りつけている。



亡くなったら、お墓には次のようなことを刻んで貰うつもりでいる。

- ・ 俗名
- ・ 戒名
- ・ 生年月日 昭和**年**月**日
(西暦 19**年) (皇紀 26**年)
- ・ 生誕地 **県**郡足近i村市場 792 番地
- ・ 父親 ** 久
- ・ 母親 ** れきお (←名「れきお」の文字は 変体かな)

- ・ 没年 (未定 西暦・皇紀を付記)
- ・ 没年 (未定 西暦・皇紀を付記)

一方では、脳卒中の後遺症のためのリハビリをデイケアとデイサービスに夫々週一回通っている。やせ我慢つづきである。

- ・脳卒中（小脳出血）発症－2015/01/25
- ・リハビリ開始－－－－2015/04/17

こちらのスタッフさんはどちらもとても親切で嬉しい。コロナ禍、自宅待機が続く外出機会の少ない中の楽しいひと時を過ごす良いときである。

”まだまだこれから”・・・長く使い続けている。
いつまで続けられるかわからないが、教育勅語をお借りするならばこれからも、「學ヲ習ヒ」「知能ヲ啓発」していきたいと思っている。

お粗末さまでした。

以上

(2022/03/25)